

香川高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	社会Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	1117		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	通信ネットワーク工学科 (2019年度以降入学者)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『高等学校 公共 これからの社会について考える』 (数研出版)				
担当教員	田村 昌己				
到達目標					
現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について、基本的な視座と知識を身につけ、自分の意見を表明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について、基本的な視座と知識を十分に身につけている。	現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について、基本的な視座と知識をある程度身につけている。	現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について、基本的な視座と知識を身につけていない。		
評価項目2	現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について、各種資料を活用しながら、自分の意見を根拠とともに表明できる。	現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について、自分の意見を表明できる。	現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について、自分の意見を表明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会とそこに生きる人間はどのようなあり方をしているのか。倫理・政治・経済の各分野の主要なテーマを取り上げ、現代社会を生きる私たちが直面する様々な問題について学習する。				
授業の進め方・方法	教科書と教員作成資料を用いた講義形式で進める。適宜、各回のテーマに関する調査や演習、ディスカッションを行い、その成果物の提出を求める。				
注意点	ニュースなどを通じて広く社会に関心を持つことを心がけて欲しい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	青年期の課題	青年期に生きる私たちが抱える課題について理解し、それを説明できる。A1:3	
		2週	哲学的問い	先哲の思想を手がかりにして、哲学的諸問題に対して自分の意見を表明できる。A1:3	
		3週	宗教と人間	世界三大宗教の概要について理解し、それぞれの特色を説明できる。A1:3	
		4週	地球環境問題と資源・エネルギー問題	地球環境問題及び資源・エネルギー問題に関して、その現状と課題を理解し、自分の意見を表明できる。A1:1-2, A2:1-2, A3:1-3	
		5週	生命倫理	生命倫理の諸問題に関して、その現状と課題を理解し、自分の意見を表明できる。A1:1,3, A2:1-2, A3:1-3	
		6週	高度情報社会	情報技術が社会に与える影響に関して、その現状と課題を理解し、自分の意見を表明できる。A1:1, A2:1-2, A3:1-3	
		7週	ライフプランニング	どのようなライフイベントがあるかを理解し、生涯設計を行うことができる。A3:1-2	
		8週	前期中間試験	前期第1-7週の授業で得た知識と考察を適切にアウトプットする。	
	2ndQ	9週	民主政治の基本原則	民主政治の基本原則 (基本的人権の保障・国民主権・権力分立) について、民主政治の歴史を踏まえながら説明できる。A1:3, A3:3	
		10週	日本国憲法	日本国憲法の特色と基本原則について説明できる。A1:3, A3:3	
		11週	基本的人権 1	平等権と自由権について、具体的事例を挙げつつ説明できる。A1:3, A3:3	
		12週	基本的人権 2	社会権と参政権、請求権について、具体的事例を挙げつつ説明できる。A1:3, A3:3	
		13週	国会と内閣	国会と内閣のしくみと役割について説明できる。A1:3, A3:3	
		14週	地方自治	地方自治のしくみと役割について説明できる。A1:3, A3:3	
		15週	選挙の役割と意義	選挙の役割と意義を理解し、選挙の原則や選挙制度について説明できる。A1:3, A3:3	
		16週	前期期末試験	前期第8-15週の授業で得た知識と考察を適切にアウトプットする。	
後期	3rdQ	1週	法とは何か	法の役割と意義、分類について説明できる。A1:3, A3:3	
		2週	私法	私法の基本原則と私法上の権利について説明できる。A1:3, A3:3	

4thQ	3週	契約と消費者の権利	契約とは何かを理解し、かしい消費者としてとるべき行動を説明できる。A1:3, A3:3
	4週	司法権と裁判制度	司法の役割について理解し、裁判制度について説明できる。A1:3, A3:3
	5週	裁判のしくみと司法参加	裁判員制度などによる国民の司法参加について説明できる。A1:3, A3:3
	6週	国際社会と国際法	国際社会における国際法の役割と意義について説明できる。A1:3, A3:3
	7週	日本の安全保障	日本の安全保障の現状と課題について説明できる。A1:3, A3:3
	8週	後期中間試験	後期第1-7週の授業で得た知識と考察を適切にアウトプットする。
	9週	経済のしくみと産業	経済のしくみとの中で企業が果たす役割について説明できる。A1:3, A3:3
	10週	労働者の権利と労働問題	労働者の権利と現代の労働問題について説明できる。A1:3, A3:3
	11週	ミクロ経済	市場経済について理解し、市場における個々の経済主体の行動と価格決定のメカニズムについて説明できる。A1:3, A3:3
	12週	マクロ経済	マクロ経済の視点を理解し、経済指標と経済成長について説明できる。A1:3, A3:3
	13週	金融の役割と金融政策	金融の役割について理解し、そのしくみと金融政策について説明できる。A1:3, A3:3
	14週	財政と租税	財政の役割について理解し、そのしくみと財政政策、租税について説明できる。A1:3, A3:3
	15週	国際経済	貿易のしくみと外国為替について説明できる。A1:3, A3:3
	16週	後期期末試験	後期第8-15週の授業で得た知識と考察を適切にアウトプットする。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前4
			民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前3	
		公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前5	
		自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15		
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前4,前5,前6
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	前4,前5,前6,後3
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	前4,前5,前6,後3
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	前4,前5,前6,後3
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	前4,前5,前6,後3
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	前6,後2
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	前6
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	前4
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前4
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前4,後6
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	前14
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	前6,後2
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	前6,後2
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	後1,後2,後9

分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	グローバル化・異文化理解	技術者を指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	前3,後1,後2,後6
			全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	前4
			技術者を指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	前3,前4,後7
			科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	前4,前5,前6
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	前4,前5,前6
			それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前3
			様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前3
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前3
			それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	前4,前6
			周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	前4,前5,前6,前7
	自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3	前4,前5,前6,前7,前15		
	目標の実現に向けて計画ができる。	3	前7		
	目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	前7		
	日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	前7		
	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前15,後3,後5		
	法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	前10,後1,後2		
	他者のおかれている状況に配慮した行動をとれる。	3	前11,前12		
	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	前4		
	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前7		
	その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	前7		
キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前7			
これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前7			
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前7			
企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前7,後9			
企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前7,後9			
企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	前7,後9,後10			
企業には社会的責任があることを認識している。	3	後9			
企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	後9,後11,後15			
調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前14,後9			
企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	後9,後11			
社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	前7,後9			
技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	後9			
技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	後9			
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前7			
企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前7			
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前7			

評価割合			
	試験	提出物	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	15	95
分野横断的能力	0	5	5